

土木学会四国支部「土木紀行」No.44(高知県)

「鏡ダム」

鏡ダムの位置する鏡川は高知市土佐山にその源を發し，浦戸湾に注ぐ河川延長 31.1km，流域面積 170km² 鏡川水系の本流で二級河川である．高知市中心部の近くを流れる川でありながら水質は比較的良好であり夏場の中流域では川遊びや遊泳を楽しむ人でにぎわい，8月には，鏡川河畔のみどりの広場で，高知市納涼花火大会が開催されている．鏡川はその水の美しさから，「平成の名水百選」に選定されており，安岡章太郎原作の小説「鏡川」の舞台にもなっている．

鏡ダムはその鏡川のほぼ中央部に位置しており，高知の水瓶としても有名である．鏡ダムの建設は昭和 35 年に着手され，昭和 41 年に完成した．写真-1 に鏡ダムの全体図を，写真-2 に前景を示す．洪水調節・河川維持用水・水道用水・工業用水・発電の機能を有する多目的ダムとして利用されており，吉

野川水系の早明浦ダム上流の堰から導水トンネルなどによって吉野川水系瀬戸川及び同水系地蔵寺川支川平石川の流水を，鏡ダム上流の鏡川まで導水している．これが高知分水と呼ばれ，早明浦ダムを中核とした「吉野川総合開発計画」の一環として都市用水を確保している．その仕様は堤高 47m，堤頂高 150m，堤体積 72 千 m³，有効貯水量 8360 千 m³，湛水面積 52ha である．また，高知分水では吉野川の取水堰と鏡川の間にある有効落差約 236m を利用した水力発電もおこなわれており，分水の上水道供給に支障を来たさない範囲で最大 11800kw が発電されてい



写真-1 鏡ダム全体図¹⁾



写真-2 鏡ダム前景

る²⁾

近年、鏡ダムにおいて冬場における少雨が原因で毎年のように渇水調節を実施しており、放流量を調整するための微小放流により、ゲート端部へ水流が集中し、水密ゴムの劣化が確認されると共に、振動によるゲート本体への損傷も懸念されている。この対策として平成17年度から渇水時の少量放流が可能となるように放流管の改造を行い、少量放流ゲートを設置することとしており、水密ゴムの劣化対策として、水密ゴムの交換も併せて実施している。

当ダム下流の城ノ平地区では、高知県体の施設や河川管理用道路の整備が進められたことから、キャンプなどの河川利用者が増加している。このため、平成17年度、城ノ平地区に新たに放流警報局を設置し、水辺でレクリエーションを楽しむ人々の安全を確保することとしている。特に、鏡ダム下流にある土佐鏡湖公園は桜の名所として有名であり毎年恒例の「かがみ桜まつり」も行われる。雨の多い高知県では、迫力のあるダムの放流と桜が同時に見られるのも珍しくない。

ダムは、水を供給するだけでなく洪水の際に調整を行ったり、発電を行ったりと私たちの生活において非常に重要な存在であるが、普段の生活ではそれを意識することはほとんどないというのが現状である。現在、八ッ場ダムなどの問題もありダム建設に関する関心が高まってきているため、これを機にダムについてよく考えていただけると幸いである。

(高知高専専攻科建設工学専攻2年 石坂直希)

参考文献

1) 高知市ホームページ:

<http://nc2dl310.city.kochi.kochi.jp/>

2) 鏡ダム: ザ・ダムサイト

<http://www40.atwiki.jp/damsite/pages/1033.html>



写真-3 桜の名所 鏡ダム¹⁾